

# 第7回 書評コンテスト

2022年8月1日（月）より応募開始



-課題図書を読んで「書評」を書こう-

※課題図書は裏面をご覧ください

- ▶対象：学部学生
- ▶形式：Word形式 A4 1行40字 1ページ36行（明朝推奨）  
本文 2,000～2,400字  
※本文以外（タイトル等）は文字数に含めない。
- ▶応募方法：E-Mailに添付し図書館へ送信 lib@cuc.ac.jp
- ▶締切：2022年 **9月20日（火）必着**

◎図書館Webサイトに「応募要項」「文書テンプレート（ダウンロード可）」を掲載しています。

※書評には必ずオリジナルのタイトルを入れてください。

※他人の書評の丸写しや、一部の書き換えで自作としたことが判明した場合は、選考の対象外となります。

※応募作品の使用権は千葉商科大学附属図書館に帰属します。



**最優秀賞 副賞 30,000円 1名**

**優秀賞 副賞 20,000円 1名**

**奨励賞 副賞 10,000円 若干名**



※受賞者以外のみなさんへ参加賞を贈呈します。図書館Webサイト

# 課題図書

## 『民衆暴力：一揆・暴動・虐殺の日本近代』

著：藤野裕子 中央公論社（2020）

## 『ブラックボックス』

著：砂川文次 講談社（2022）

## 『隠された奴隷制』

著：植村邦彦 集英社（2019）

課題図書は  
図書館で展示しています

## 書評とは？

- ▶ 書評（book review）とは、まだ読んでいない人に「その本の価値」を紹介する文章。「その本の価値」とは「読むことで〈世界の見え方〉がどう変わるか」ということ。
- ▶ 読書感想文と似ているが、感想文は「自分」の思ったことが中心、書評は「その本」が主役、という違いがある。
- ▶ 自分の感想を超えて、その本の「核心」をぐいっとつかみだすのが書評。書評では、「ここが核心だ」と思うところを、読んでいない人に分かるように説明する。
- ▶ 自分が読んだ時の感想は、出発点としてはとても重要。書評の中に書かれていてもいい。しかし、感想で終わってしまうと書評とは呼べない。

## ポイント！

「〇〇な人にはぜひ本書を読んで欲しい」といったオススメは、「核心」を伝えるのに必要でないなら意味はない。文章力も重要。応募する前に、誤字脱字はもちろん、分かりにくいところがないか、きちんと確認しよう。

《お問い合わせ》

千葉商科大学付属図書館 lib@cuc.ac.jp / TEL : 047-373-9798